

米国 果実と野菜なしには「アメリカを再び健康に」できない

[FreshFruitPortal](#) 2025年7月17日

IFPAが大規模な健康キャンペーンを開始: 果実と野菜なしにはアメリカを再び健康にできない

国際青果物協会(IFPA)は、大胆で新しいと自ら形容するキャンペーンを開始した。これは、健康増進、医療費削減及び長寿のための自然本来の処方箋として、果実と野菜にスポットライトを当てたものである。

「薬局(ファーマシー)ができる前に農場(ファーム)があった」「(医療費の)自己負担の前にニンジンがあった」といった見出しで、このキャンペーンは米国の政策立案者に明確なメッセージ: 『果実と野菜なしにはアメリカを再び健康にできない』を伝えている

(訳注: 「アメリカを再び健康に」(make America healthy again)はトランプ政権の標語 Make America Great Again を模したもの)

IFPAのキャシー・バーンズCEOは、「果実と野菜はあまりにも長い間、公衆衛生に不可欠だが無口な縁の下の力持ちであった」と述べている。(以下「」は同氏の話)

「この新しいキャンペーンは、我々が常に知っていた真実を思い出させてくれる: 栄養は予防の基礎であり、青果物はあらゆる健康計画において否定できない礎石であるということだ。これはなにもテクノロジーや医薬品やウェアラブル機器を置き換えるものではない。それは、無加工のありのままの食材が、より健康な国を築くための基盤として認識されるようにすることである。」

ワシントン首都圏を中心とするデジタルメディアで実施されている「より健康なアメリカのための青果物(Fresh Produce for a Healthier America)」キャンペーンは、慢性疾患との闘いにおいて、青果物は効果が認められた不可欠な味方であることを思い起こすよう、医療政策を策定する人々に向けて直接訴えている。

このキャンペーンはまた、IFPAがMAHA(Make America Healthy Again)委員会に提出した政策提言にも焦点を当てており、これには、青果物へのアクセス拡大を支援し、公衆衛生と医療費節約において測定可能な利益をもたらす、実証済みで実行可能な措置が含まれている。

これらの推奨事項の中で、IFPAは、連邦医療プログラムの給付対象として農産物の処方箋を組み込むこと、及びすべての児童や生徒が健康的な食習慣を早期に身につけることができるように、生鮮果実・野菜プログラムを拡大することを強く提唱している。

IFPAはまた、安全な作物保護ツールへのアクセスを確保し、長期的な食料安全保障を強化する再生型農業の実践を奨励することにより、果実と野菜の生産を支援するようMAHA委員会に要請した。

バーンズ氏は、「果実と野菜には、何世紀にもわたって蓄積された科学的知見、生きた経験、実証済みの効果が伴っている」と付言する。「これは、すべての米国人が新鮮な青果物を手頃な価格で入手できるように、政策、対策及び生産者に投資する行動の呼びかけである。なぜなら、果実と野菜なしにはアメリカを再び健康にすることはできないからである。」

慢性疾患と健康的な生活をめぐる全米の議論が続く中、IFPAのキャンペーンは政策立案者に対し、最も基本的で効果的な健康の解決策、つまりすべての健康戦略のパートナーとして本物の食品を忘れないことを訴えている。